

# 京都の庭園における魅力発信の方策について

伊藤 信太郎

## 1. はじめに

京都市には、約三千の国宝、重要文化財、市指定登録文化財をはじめ、多くの貴重な有形・無形の文化遺産があるが、こうした京都の文化遺産をテーマ毎にまとめ、地域性、歴史性、物語性を持った集合体として認定する「まち・ひと・こころが織り成す京都遺産」制度（略称：京都遺産）が、平成 28 年 1 月に創設された<sup>1)</sup>。この制度は個々に文化遺産を認定するのではなく、京都の地域社会、文化遺産を支える人や匠の技、精神性などに基づくテーマを決め、そのテーマに関連する文化遺産を調査し、集合体として認定するものとしている。平成 29 年 3 月には、制度初のテーマ認定が行われ、三つのテーマのうちの一つとして、「山紫水明の千年の都で育まれた庭園文化」が認定された。京都の庭園は、作庭した時代の思想や文化を映し出ししながら、京都が歩んできた悠久の歴史を見る人に感じさせることが、認定理由に挙げられている。

また、平成 28 年京都観光総合調査<sup>2)</sup>によると、京都市の観光において、特に「消費」「宿泊」「歴史・伝統文化」が成長しており、今後、文化を基軸とした観光の取り組みを推進するものとして、「文化遺産・伝統文化・匠の技体験型ツアー拡充事業」等によって、文化体験ツアー等の造成促進を行うとしている。京都の文化遺産の一つとして、庭園文化に関する魅力発信は、ますます重要になってきている。

様々な様式の日本庭園が市内に点在する京都では、長い時間をかけて、人と自然との関わり方や、伝統的な庭園技法、知恵といった緑の文化が育まれてきた。庭園文化を知るということは、個々の庭園の美しさのみならず、作庭者の意図や歴史的な背景、庭園を守り育てる庭師の取り組みを知ることであると考えられる。

## 2. 目的

京都の庭園には、多くの観光客が訪れ散策するが、各施設における看板やパンフレットには、庭園について理解を深める解説があまりなされていない。下村ら<sup>3)</sup>は、京都の公開庭園における観光客への情報提供に関する研究で、庭園を理解する上で必要と思われる「庭園のもつ意味」、「歴史的背景」については難解であると感じる人が少なくなく、観光客は情報提供を求める一方で、提供できている施設は全体の半数にも満たないことを明らかにした。その上で、観光客の要望する「鑑賞ポイント」や「庭園のもつ意味」「歴史

的背景」等の情報提供のあり方を改善することができれば、京都の庭園はよりいっそう理解され親しみをもたれるようになるのではないかと、まとめている。

そこで本研究では、多くの人が京都の庭園について魅力を感じることに繋がる情報発信の方策を検討することとした。

先の下村らの研究では、庭園見学者の要望する情報は、「庭園の特徴」が最も多く、次いで「鑑賞ポイント」が、その次に「庭園の持つ意味」「歴史的背景」が同数で回答を得られている。これらの要素をもとに、検討を進めることにした。

最も要望の高い「庭園の特徴」については、池泉庭園や枯山水庭園といった、庭園の様式で分類した上で特徴を捉える方法が分かりやすいと考えられる。また「鑑賞ポイント」については、庭園をよく知る専門家や日常的に庭園を守り育てる技術者（庭師）から、庭園で教わることが最も適すると考えられる。「庭園のもつ意味」や「歴史的背景」等については、難解と感じる人が多いことから、じっくり学ぶことのできる座学等による学習が効果的と考えられる。

こうした検討から、庭園についての座学と庭園見学を組み合わせた講座を、庭園の魅力発信につながる企画として、一般者を対象に3回に亘って実施することとした（（公財）京都市都市緑化協会主催）（表-1）。講座は、午前に庭園の様式や成り立ち等について座学で学び、午後にその特徴が見られる庭園を見学するプログラムとし、講師は庭園をよく知る専門家に依頼することにした。

庭園を管理する庭師による解説や、庭師の視点を紹介することは、京都の庭園文化の魅力発信に効果的と考えられる一方で、庭師による広報活動について、インターネット等を通じた広報に意欲は見られるものの、現場作業に専念したいという消極派の方が多い状況が、加藤ら<sup>4)</sup>の調査によって浮き彫りになっている。

そこで、この講座の参加者にアンケートを行い、講座に関する満足度と、要望する情報について調べる一方で、庭師による庭園の魅力発信の一助となることを目的に庭園見学者が、庭師からどのような情報を聞きたいかについてアンケートで明らかにすることとした。

表-1 庭園講座プログラム

	座学（午前）	見学（午後）
第1回	池泉庭園	銀閣寺
第2回	枯山水庭園	大徳寺方丈・大仙院
第3回	池泉回遊式庭園	平安神宮

### 3. 調査方法

平成30年1月31日（第1回）、2月14日（第2回）に開催の庭園企画講座受講者に対し、受講後に協力を呼びかけ、「講座の満足度」と「満足した理由」、「要望する情報」、「庭師に聞きたい内容」についてアンケート調査を行った（表-2）。

### 4. 結果と考察

平成30年1月31日、2月14日の2日間で講座受講生にアンケートを49部配布し、回収できたのは32部で、回収率は65%であった。

#### （1）属性

年齢的には40代から70代の方に調査をすることができた。60代が15名で47%と最も多く、次に50代が9名で28%、70代が6名で19%、40代で2名の6%という順であった（表-3）。

住所別では、京都市内の参加者が29名で、市外の参加は3名であった。

また（公財）京都市都市緑化協会の庭園に関する講座について、初めての参加者が12名であった一方で、4回目以上の参加者が13名で、リピーターと初めての参加者がほぼ同数であった（表-4）。

表-2 庭園企画講座（座学+見学）参加者へのアンケート調査項目

<p>1. 講座について、満足しましたか ①満足した②ほぼ満足した③満足できなかった④どちらともいえない</p> <p>2. 満足した理由（複数回答可） ①講師の話がわかりやすかった②専門的なことが分かった③新たなことを聞くことができた④話が聞き取りやすかった（イヤホン等）⑤行程が良かった（座学+見学など）</p> <p>3. どんなことを聞きたいと思いましたか（複数回答可） ①日本庭園の作庭者と作庭の考え方②庭園のもつ意味・様式・技法③庭園の成り立ちなどの歴史的背景④庭園の鑑賞ポイント</p> <p>4. 庭園を日頃から手入れする庭師から聞きたい事柄はありますか（複数回答可） ①植物の手入れの仕方②材料の使い方③道具の使い方④造園用語について</p>
--

表-3 年代別参加者数

40代	50代	60代	70代	合計
-----	-----	-----	-----	----

表-4 庭園講座参加回数

2	9	15	6	32
6%	28%	47%	19%	100%

はじめて	2回目	3回目	4回目以上	不明	合計
12	4	2	13	1	32
37%	13%	6%	41%	3%	100%

## (2) 調査項目の結果と考察

### (i) 満足度

アンケートの結果からは、庭園企画講座について、「満足」「ほぼ満足」の回答が足し合わせると97%となり、内容について高い満足度が得られたことが伺える(表-5)。

### (ii) 満足した理由

満足した理由について、「講師の話が分かりやすかった」「新たなことを聞くことができた」点を挙げる参加者が多く、78%、75%の高い評価を得られた(表-6)。座学時に、講師がスライドに映写しながら1時間程度で密度の濃い説明を行った点や、資料が充実していた点を書き添える回答も見られた。「話が聞き取りやすかった」については、41%と最もが評価が低い回答率となったが、庭園見学時に、講師から離れても解説が聞こえるようにワイヤレスイヤホンを準備したことを、一定程度評価する回答と考えられるが、こうした機材は、よく使用されるようになってきたため、それほど高い評価ではなかったと考えられる。

「行程が良かった(座学+見学)」については、参加者の50%に評価されたが、想定ほど高い評価につながらなかった。講座の行程は、午前中に1時間座学を行い、昼食休憩を挟んで1時間半程度、庭園見学を行うもので、拘束時間が長いことも高い評価を得られなかった要因として考えられる。

表-5 庭園企画講座の満足度

満足	21	66%
ほぼ満足	10	31%
不満足	0	0%
どちらともいえない	1	3%
合計	32	100%

表-6 満足した理由 (複数回答)

講師の話が分かりやすかった	25	78%
専門的なことが分かった	17	53%
新たなことを聞くことができた	24	75%
話が聞き取りやすかった(イヤホン等)	13	41%

行程が良かった（座学+見学など）	16	50%
------------------	----	-----

(iii) 講座で聞きたい内容

「庭園の鑑賞ポイント」が最も高い評価で、他の「作庭の考え方」「庭園のもつ意味」「歴史的背景」の要素は同数程度の評価が得られた（表-7）。年齢別で見ると、40代、50代の参加者が、60代、70代の参加者に比べ、積極的に庭園について学ぶ傾向がみられた。

(iv) 庭師から聞きたいこと

「植物の手入れの仕方」について、参加者の56%が聞きたいこととして最も回答が得られた（表-8）。「材料の使い方」「道具の使い方」「造園用語」については同数程度の回答が得られた。庭園講座への初めての参加者が全般的に聞きたいといった傾向がある一方で、4回以上の参加者は、「植物の手入れの仕方」について聞きたいとの回答が、顕著にあった（表-9）。

表-7 講座で聞きたい内容（複数回答）

	40代		50代		60代		70代		合計	
	回数	割合	回数	割合	回数	割合	回数	割合	回数	割合
①作庭の考え方	2	100%	6	67%	10	60%	2	33%	20	63%
②庭園のもつ意味	2	100%	8	89%	7	47%	3	50%	20	63%
③成り立ちなどの歴史的背景	2	100%	6	67%	8	47%	5	67%	21	66%
④鑑賞ポイント	2	100%	9	100%	10	67%	4	50%	25	78%

表-8 庭師から聞きたいこと（複数回答）

	40代		50代		60代		70代		合計	
	回数	割合	回数	割合	回数	割合	回数	割合	回数	割合
①植物の手入れの仕方	1	50%	7	78%	5	27%	5	83%	18	56%
②材料の使い方	1	50%	5	56%	3	20%	1	17%	10	31%
③道具の使い方	1	50%	4	44%	2	13%	1	17%	8	25%
④造園用語について	0	0%	3	33%	5	33%	2	33%	10	31%

表-9 庭師から聞きたいこと（初参加者・リピーター）（複数回答）

	はじめて		4回目以上	
	回数	割合	回数	割合
①植物の手入れの仕方	4	33%	11	85%

②材料の使い方	4	33%	5	38%
③道具の使い方	3	25%	4	31%
④造園用語について	4	33%	5	38%

## 5. まとめ

本研究では、庭園の魅力発信について先行研究を調べることによって、庭園理解のために伝えるべき要素を導き出し、効果的に伝えるために、座学と見学を組み合わせた講座を企画し、参加者から高い評価を得ることができた。

また講座受講者に対して行ったアンケート調査では、庭園について知りたい内容として、「庭園の鑑賞ポイント」等が高い評価を得るなど、先行研究と同様の結果を確かめることができた。このアンケートにおいて、庭園見学者は、日ごろより庭園を守り育てている庭師から、何を聞きたいかについて調査したところ、「植物の手入れの仕方」を要望する回答が最も多かった。庭師が庭園の魅力伝える際に、一から歴史や技法をまとめ直すまでもなく、日ごろから庭園で行っている季節の手入れ作業について話をするだけでも、見学者の庭園への理解はより進み、満足度が高くなると思われる。普段行っていることを、そのまま伝えることが、持続可能な庭園の魅力発信につながると考えられる。

本研究においては、庭園の魅力発信の方策の一つとして講座の企画を行ったが、ほかにも様々な方策がある。なかでもホームページによる情報発信は、より多くの人に庭園文化の魅力を発信することにつながると考えられる。京都市都市緑化協会では、京都市内の日本庭園について庭師の視点に沿った記事を作成し、ホームページで紹介してきたが、平成 29 年 12 月に、庭園のトップページをリニューアルした<sup>5)</sup>。より多くの人に見てもらえるようレイアウト変更したもので、今後は英語による庭園紹介ページを作成し、順次更新していく計画である。本研究で明らかになった、庭園見学者が知りたい情報や庭師から聞きたい情報をもとに、ホームページの更新に取り組み、庭園の魅力発信につなげていきたい。

## 参考・引用文献

- 1) 「まち・ひと・こころが織り成す京都遺産」制度（京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課）
- 2) 平成 28 年京都観光総合調査（京都市産業観光局観光 MICE 推進室）
- 3) 下村孝・水野聖子・加藤博, 京都の公開庭園における観光客への情報提供の実態と今後のあり方, ランドスケープ研究 67(5), 2004, 381-386

- 4) 加藤博・下村孝, 歴史的庭園を維持管理する京都の造園業者の現状に関するアンケート調査, ランドスケープ研究 69(5), 2006, 425-430
- 5) 京の庭を訪ねてホームページ (公益財団法人京都市都市緑化協会)